

ニューヨークの住人

東京都立中学校教諭

1 ニューヨークの成立と移民

アメリカ最大の都市で、世界の金融・経済の中心地であるニューヨークは、長い間移民の玄関口でもあった。オランダ人がこの地に入植して以来、さまざまな人種・民族がやってきた。地図を見ると、ニューヨーク市の中心マンハッタン島は、東京の山手線内ほどの広さでありながら、多くの人種・民族が集まり、それぞれが独自の生活文化を維持している地域が目立っていることに気づく。ここは、多人種・多民族で構成されているアメリカ合衆国という複合国家のまさに縮図といえよう。

地図中にあるエリス島は、面積わずか11haほどの小さな島だが、1892年から1954年までアメリカ移民局があり、当時のアメリカへの玄関口であった。修復された赤煉瓦の中央ビル(移民博物館)に、移住者にまつわる様々な歴史が展示されている。リバティー島は自由の女神(1886年除幕式)で有名である。

2 ニューヨーク市内の民族ごとの街

地図から読みとれるように、ニューヨークには様々な人種・民族がまじり合って暮らし、独自の生活圏を形成している。第二次世界大戦前はヨーロッパ系、戦後はラテンアメリカやアジア、中東などからの移住者が増加。地域ごとにコミュニティを形成して生活しているエスニック・グループも多い。その代表格が、マンハッタンのダウントウンにあるチャイナタウン(地図中①)やリトルイタリー(地図中②)で、人々はおおのこの言語や文化、生活様式を維持しながら、一方でニューヨークの価値観を尊重して生活している。

中国の街角に迷い込んだような雰囲気であるチャイナタウン、ユダヤ系移住者が多いユダヤ人



「中学校社会科地図 初訂版」p.50㊦

街(地図中③)、情緒あるヨーロッパ風の街並みが続き、ソーセージやドイツビールなどを味わえるレストランが多いドイツ人街(地図中④)以外にも、リトルブラジル(南米からの移住者が多い中で、ブラジルからの移住者は団結力が強い)、リトルウクライナ(ロシア系移住者が古くから住んだエリア)、コリアンタウン(焼肉レストランが軒を連ねるエリア)、インド人街(インド系移住者が多い)などがある。

3 人種・民族のサラダボウル

サラダボウルとは、各民族が、サラダのように、材料であるトマトやレタスが原形を維持しつつ一つの容器(単一の社会)におさまっているたとえで、今のアメリカ社会の様相を的確に表現した用語である。ニューヨークでは、このように自分の文化、歴史に誇りを持つ民族ごとの街がどうして多く見られるのだろうか。もともと移民国家であるアメリカでは、ニューヨークでも移民たちは英語のできない者も多く、彼らは労働者階級など一定の階層を担ってきた。そのため、特定の地域に住み、地域社会に集住して互いに助け合い、固有の民族文化、習慣を堅持してきた。アメリカ社会にうまく溶け込めなかったり、積極的に溶け込むのを拒んだりした結果、民族ごとの街が形成されてきたのである。まさにニューヨークは「人種・民族のサラダボウル」の象徴的な街である。